

宇治・ウトロ平和祈念館開館1周年 民族音楽演奏 笑顔はじけ

在日コリアンの歴史を伝える宇治市伊勢田町の「ウトロ平和祈念館」が30日、開館から1周年を迎え、記念式典を行った。これまで延べ約1万3千人が訪れ、住民とも交流しながら学びを深めた。関係者たちが朝鮮半島の民族音楽の演奏などで節目を喜び合った。

平和願い 太陽光発電設置

同町のウトロ地区は、太や支援者でつくる「ウトロ いた戦後の様子や、日韓市民の支援、市営住宅が新設された現在などを、写真や日用品で紹介している。



⑤ウトロ農楽隊による演奏などで、開館1周年を祝った記念式典(宇治市伊勢田町・ウトロ平和祈念館前の広場)
⑥屋上に新設された太陽光発電設備

式典で田川明子館長は「ここは(朝鮮半島の)南も北も、朝鮮人も日本人も分け隔てなく、『ウトロとともにありたい』場所になっている」とあいさつ。来賓を代表し、金亨駿・駐大阪韓国総領事は「コロナ禍や、地区に放火があったへイトクライムを乗り越えてオープンし、韓国と日本の未来志向にとって大きな進展となった」と祝辞を述べた。

在日2世や3世の住民らでつくる「ウトロ農楽隊」が演奏を披露した。色鮮やかな衣装のメンバーたちが太鼓やかねでにぎやかな音色を奏でると、参加者から手拍子が起こり、会場全体に笑顔があふれた。

同館の屋上では、新設された太陽光発電設備の点灯式もあった。エネルギーを巡る戦争が今なお絶えない中、平和をテーマにした同館からエネルギーの地産地消をアピールする狙いで、費用は市民の寄付金や府の助成金などでまかされた。蓄電設備もあり、災害時の地域拠点にもなるという。